

歩く会の見どころー八本松・川上 3月例会報告

令和5年度最後となる3月例会は3月23日(土)に市役所北館市民協働センターで開催され、28人が参加した。今回の例会発表では令和6年度史跡文化財を見て歩く会の開催地、八本松・川上地区の見どころを3人の発表者が紹介した。

最初に、天野浩一郎氏が「川上の歩み」と題して、旧石器時代から昭和までの歴史概要を紹介。二番手の蔵楽恭子氏は、清滝十二坊の一つと伝わる旧妙福寺跡発掘調査の様子や、現存する妙福寺に伝わる縁起の検証結果なども伝えた。最後に、蔵楽知昭氏が飯田にあった大内氏の平城「土居遺跡」について説明し、この地が重要な場所であったことを印象付けた。

イベント当日、限られた時間の中で、どの面白さを伝えるか。悩ましい選択を迫られそうである。

<例会参加者(敬称略)>

三島昇、赤木達男、重竹訓江、池本安弘、山路悦子、谷本操、天野浩一郎、国永昭二、蔵楽知昭、蔵楽恭子、角谷勉、船越雄治、光田清志、藤原美春、國松宏史、近藤孝美、今田幸博、宍戸元文、木原敏博、小西美智子、福村博士、丸本富美子、間瀬忍、西本嘉住、川口裕子、大森美寿枝、中川平介、吉井良平(以上28名)

2月例会発表 その1

全国の古墳巡り~珍しい古墳のお話~ 福村 博士

この度は久しぶりの“古墳”についての発表になりませんが、今回のお話は特にこの地方には無い珍しい古墳のお話をしたいと思います。

さて“古墳”のお話はしばらくぶりなので、おさらいをしたいと思います。

皆さま良くご存じの古墳時代とは、一般的には3世紀中期~7世紀頃までの約350年間に造られた前方後円墳の期間を言います。そして全国で現存する古墳の数は約16万基と言われていますが、古墳には様々な形があります。

一番多いのが古墳の約9割をしめる“円墳”

令和6年度総会のご案内

日時 4月13日(土) 10:30~
場所 市役所北館1階 市民協働センター

ですが、なんと埼玉県の丸墓山古墳は墳長が105mもあります。

そして数ある古墳の中で最上位である前方後円墳の数は約5000基と言われています。

因みに全国的に古墳が多い順では、2017年文化庁発表では1位が兵庫県 18,851基、2位鳥取県 13,486基、3位京都府 13,016基、4位千葉県 12,765基、5位岡山県 11,810基、6位広島県 11,311基、7位福岡県 10,754基、8位奈良県 9,700基となっています。

古墳の数では奈良県が少ないように思われますが、200mを超えるような大型古墳は圧倒的に大阪府や奈良県の近畿地方に多くあります。

それでは前方後円墳の発祥の地である、奈良県明日香村の古墳から紹介致します。

①まずは最初は前方後円墳ではなくて八角形の大変珍しい牽牛子(けんごし)塚(づか)古墳(こふん)です。



近鉄明日香駅の裏手山の中腹に造られている、墳丘は版築で作られ対辺が22mの八角形で墳丘斜面には二上山(にじょうざん)産の凝灰岩切石が施されています。

*二上山は古墳から約14kmにある山です。

それではこの八角墳の特徴とは何か?…と言いますと

古墳時代では最上位であった前方後円墳が、646年大化の改新後の薄葬令(はくそうれい)によって豪族の前方後円墳が造られなくなつてから、天皇陵の古墳の形が中国の道教の影響で、天下八方の支配者にふさわしいとして八角形なつたのではないかとされています。

この八角墳の最大の古墳は、明日香村大字野口にある野口天皇陵で703年天皇として初めて

火葬された天武天皇と持統天皇の陵墓です。そして8世紀には孫である文武天皇が火葬され同じく3段築造の八角墳（中尾山古墳の説）を最後に終焉となったようです。このように考えると、この牽牛子塚古墳は当然天皇陵ではないかと考えられます。

埋葬施設は二上山産の凝灰岩80tを用い、くり抜き式横口式石郭で石室内部は2つの墓室になっています。石室からは当時としては最高級の棺やガラス玉などが出土しています。

さて古墳の被葬者は誰かと言うと、第36代斉明天皇と間人（はしひと）の皇女（ひめみこ）との説があります。

天皇家系図によると斉明天皇は第34代舒明天皇の皇后でしたが天皇が崩御された後に第35代皇極天皇になられた初めての女性天皇です。その後、弟の第36代孝徳天皇は早く亡くなり再度第37代斉明天皇になりましたので同一人物という事になります。

全国的には八角墳は12基しか確認されていない大変珍しい古墳と言われていますが、最近の研究では、何故か天皇陵ではないのに7世紀前半、東京の稲荷塚古墳や群馬県伊勢塚古墳、山梨県経塚古墳など豪族の墓が発見され謎が深まります。

②高松塚古墳 *古墳の名前は古墳に高い松があったから高松塚古墳といわれています。

野口古墳から約1kmの国営飛鳥駅氏公園の中にある、下段が直径23m、上段が18mの二段式の“円墳”です。

*古墳の埋葬施設は二上山の凝灰岩切石で造られた横口式石槨です。有名な古墳ですから皆さんの中にはすでにご覧になった方が沢山いらっしゃるでしょうが、今一度特徴を説明したいと思います。

古墳の大きな特徴は、石室の壁に宮廷の男女が描かれている国内唯一の古墳です。藤原京期（694～710年）終末期の古墳であり、被葬者が天武天皇と関係が深い人物であると考えられます。

想定される人物は、天武天皇の4人の皇子（みこ）のうち705年以降に死没時期に該当する人物は刑部（おさかべ）皇子（みこ）との説が有力です

③キトラ古墳 *キトラの名前について

石室の中を覗くと亀と虎も壁面が見えたため「亀虎古墳」と呼ばれた説や地名の「北浦」が訛って「キトラ」になった説など諸説あります。

古墳の規模は下段が直径13.8m、上段が9.4mの2段式の円墳です。

*古墳の埋葬施設は二上山の凝灰岩切石で造られた横口式石槨です。

古墳の特徴は、石室内に四神（青龍、朱雀、白虎、玄武）と獣頭人身の十二支、天文図の壁画があります。また本格的な中国式星図は世界最古と言われています。

キトラ古墳は高松古墳と約1.4kmの距離にあり、野口天皇陵から中尾山古墳、高松塚古墳、文武天皇陵などの直線上にあります。

この古墳の被葬者もやはり天武天皇と関係が深い人物であると考えられ、特に皇子として壬申の乱で功績があり死没が996年である高市皇子が相応との説が有力です。

*古墳の築造の年代が近い二つの古墳ですが、比較してみると「キトラ古墳」の方が古いようです。

④箸（はし）墓（はか）古墳

三輪山の麓は大和王権の発祥の地と言われ、古墳の近くには大神（おおみわ）神社や纏（まき）向（むく）遺跡などがあります。

古墳は日本最初の前方後円墳と言われ、墳丘：278m、高さ：30m、周濠があります。

*築造は出土した土器を炭素14年代法で測定したところ240～260年、卑弥呼が没したとされる年が247か248年頃なので、卑弥呼の墓ではないかと言われていますが、日本書紀によると第7代孝霊天皇の皇女（ヤマトトトヒ、モモソヒメノミコ）といわれ、宮内庁ではそのように治定しています。

⑤黒塚古墳

古墳時代前期（3世紀後半）前方後円墳。

墳丘：130m、後円部径：72m、

後円部高さ：約11m、前方部高さ：約6m、

竪穴式石室、全長：約8.2mの長大な規模。

川原石と板石を使った合掌式の特殊な石室、クワの巨木（直径1m、長さ6m）をくり抜いた木棺が使用されています。

この古墳からは、画門帯神獣鏡1面、三角縁神獣鏡が33面も出土しています。

*一つの古墳から三角縁神獣鏡が出土した数は日本最多といわれています。



鏡は約22cm、重さは1kgもありますが、良く見ると同じではなく、文様が三神や四神など6種も違いがあり、直径も21.8cm、22cm、22.3cm、24.7cmと様々あります。

何故この古墳にたくさんの三角縁神獸鏡が出土したのか、大きな謎がある古墳です。

⑥今（いま）城塚（しろづか）古墳 大阪府高槻市

6世紀前半に亡くなった（531年没）第26代継体（けいたい）天皇の墓と言われています。

（聖徳太子の曾祖父といわれています）

*宮内庁は、ここから1.3kmにある茨城市の太田茶臼山古墳を現在も継体天皇陵に治定していますので、今城塚古墳が日本で唯一一般の人が立ち入り可能な天皇陵になっています。因みに太田茶臼山古墳の築造は5世紀中頃と言われています。

前方後円墳 墳丘：181m 周濠は2重。

この時期では最大級の前方後円墳と言われ、古墳のそばには200体を超える人物埴輪や動物埴輪、人の背丈ほどもある家形埴輪など国内最大規模の大王の埴輪祭祀場です。

*これまで行った古墳で動物埴輪は馬や、猪、犬、水鳥などを見たことがありますが、牛の埴輪を見たことが有りませんでした。ここで初めて見る事が出来ました。

*これまでの天皇陵は大和川水系の大和、河内でしたが、初めて淀川水系に築造されたことは継体天皇の出自である近江（滋賀県）と関係があるのかもしれない。

古墳の近くには今城塚古代歴史館があり、管内には大変珍しい石棺が3つあります。それは熊本県宇土産の石、兵庫県高砂市の竜山石、奈良県二上山の凝灰石で作られています。

また、何故かこの近くには藤原（中臣）鎌足の阿武山古墳があることも興味深いです。

⑦森將軍塚古墳 4世紀中頃 “ヤマト王権と関係を深めた「科野のクニ」最初の王”

長野県最大の前方後円墳 墳長：約100m。

（標高：490m、比高：130mの尾根上に築造）

*狭い尾根に築造するために「ク」の字に折れ曲がっている。

*「墓抔」二重の石垣 長さ：15m 幅：9.3m 墳長からの深さ：3.5mに石室を築く。

竪穴式石室は日本最大級 長さ：7.6m、幅：2m、高さ：2.3m、床面積：15.6㎡。

赤い色の「ベンガラ」を壁面に塗り、棺の周囲には「朱」がまかれています。

棺は巨木を二つに縦割りした内部をくり抜いた、割竹形持木棺だと言われています。

*古墳の裾テラスから出土した須恵器の大きな甕 直径：1m、高さ：1.2m、大阪の堺市あたりで作られ運ばれてきたものや銅鏡1枚が鉛分析の結果、中国製三角縁神獸鏡であることが分かっています。

*「ベンガラ」は縄文時代から使われていたが、「朱」（赤色硫化水銀）は国内では奈良県、三重県、徳島県などだけで採取される貴重な顔料です。

*古墳の前方部と後円部に並べていた埴輪は、全部で約200個で形は坪形埴輪、円筒埴輪、朝顔形埴輪、家形埴輪、合子形（ごうすかた）埴輪が有りました。また、埴輪には透孔（すかしあな）という三角形の穴がたくさんあり、ベンガラで赤く塗られていました。

⑧葉（は）佐（さ）池（いけ）古墳 古墳の形：長円形（楕円に近い）築造：6世紀中頃（古墳後期）長さ：41m、幅：約23m、高さ：1.8m。

*横穴式石室 5基「1号石室」全長：4m、幅1.4m、「2号石室」全長：7.1m、幅2.3m、高さ：2.4m。

*この古墳の特徴は、須恵器などを作る集団の墓地と考えられ珍しく未盗掘の古墳であった。

埋葬前の「殯（もがり）」の儀式の証明…1号石室調査で発見されました

*「モガリ」とは、日本の古代に行われていた葬送儀礼のことです。

遺体を埋葬するまでの間、遺体を小屋内に仮安置して儀礼をおこなうことです。

人間が完全に死者になるまで仮安置して別れを惜しみ、かつ慰め死体の腐敗変化を見て「死」を確認することです。

*この1号石室の調査でハエ（ヒメクロバエ属）のサナギの殻が見つかっており、亡くなってから一定期間明るい場所に安置されていたことが分かりました。

また、お供えにハマグリや装飾付須恵器（子持高坏）等も見つかっている日本でもこれまで見つかっていない大変珍しい古墳です。

⑨王塚古墳 前方後円墳

*大変珍しい装飾古墳で未盗掘の古墳です。

築造は6世紀中頃。（古墳後期）

墳丘：約86m、高さ：約9.5m。

*横穴式石室 4人の埋葬があったと推定されています。

全長：6.75m、後室長さ：4.43m、

後室幅：3m、高さ：3.72m。

最大の特徴は、石室のほぼ全面に施された壁画です。

描かれている図は、騎馬像、馬、鞍（ゆぎ）、

盾、大刀、弓等の他、双脚（そうきやく）輪状（りんじょう）文（もん）、蕨手（わらびて）文（もん）、三画文、同心円文などの幾何学的文様があります。

装飾古墳の壁画で使われている色は6色（赤、黄、緑、青、黒、白）ですが、そのうち青を除く5色が使われており国内最多です。

副葬品の大部分が残された状態で発見されていますので全て国の重要文化財に指定されています。

出土品：①変形神獸鏡1面 ②玉類 ③金環1個 ④馬具類 ⑤金銅品多数 ⑥鉄大刀、鉄鉾、鉄刀子、鉄鏃 ⑦土器類、須恵器高坏など多数

*現地の古墳は当時石炭の発掘が盛んな時期でもあり、残念ながらすでに古墳は発掘されて全体の形がありません。

装飾古墳は日本全体では約600ヶ所ありますが、そのうち約340基が九州地区、特に福岡県、熊本県に集中しており熊本県山鹿市ではチブサン古墳などが有名です。

*装飾古墳は大陸や朝鮮半島との交流が盛んだった九州で多く広まったのではないかと思います。

約1時間の講演があり、質問コーナーでは“前方後円墳”は被葬者が亡くなるより前か後に造られるのかとの質問がありましたが、答えは大型の古墳は2～3年以上かかると想定されるので、王が生前から墓を造るよう準備をしていたと考えますとの回答でした。

2月例会発表 その2

第38回東広島の史跡・文化財を見て歩く会で巡る八本松・3神社の「絵馬」

今田 幸博

令和6年4月29日に開催される第38回東広島の史跡・文化財を見て歩く会—八本松・川上地区再発見—で巡る3神社（清水川神社・川上神社・疱瘡神社）の絵馬を、歩く会の前に会員の皆さんに概略を紹介し知識を深めて頂いた。

3神社の「絵馬」の概要

- ・清水川神社：4面（拝殿3面・幣殿1面）
- ・疱瘡神社：3面（拝殿3面）
- ・川上神社：16面（拝殿14面・幣殿2面）

- ・江戸時代：1面（川上神社1面）
- ・明治時代：

3面（川上神社2面・清水川神社1面）

- ・大正時代：2面（川上神社1面・清水川神社1面）
- ・昭和時代：9面（川上神社5面・清水川神社2面・疱瘡神社2面）
- ・不明：8面（川上神社7面・疱瘡神社1面）

清水川神社の「絵馬」

①曾我兄弟仇討ち図

- ・大正2年（1913）1月吉日 奉納



②楠木正成・正行訣別図

- ・明治24年（1891）9月10日 奉納

③国歌「君が代」額

- ・昭和御大典記念「昭和3年（1928）秋」奉納

④神武東征図

- ・皇紀2600年「昭和15年（1940）」奉納



疱瘡神社の「絵馬」

①奉祝紀元二千六百年：和歌額

- ・昭和15年（1940）11月10日 奉納

②神馬図

- ・昭和5年（1930）10月吉日 奉納



- ③由緒額
・奉納年月日 不明

川上神社の「絵馬」

- ①不明額
・明治25年（1892）6月吉日 奉納
- ②神馬図
・江戸時代：
元文2年（1737）9月吉辰日 奉納



- ③三十六歌仙図「源順」
④三十六歌仙図「小野小町」
⑤三十六歌仙図「紀友則」
・奉納年月日 不明



- ⑥伊勢神宮図
・大正元年（1912）9月 奉納
- ⑦現物「龍」
・奉納年月日 不明
- ⑧能 奉納額
・昭和52年（1977）8月吉日 奉納
- ⑨奇竹額
・明治31年（1898）10月吉辰 奉納
- ⑩由緒額
・昭和61年（1986）2月 奉納
- ⑪不明額
・奉納年月日 不明
- ⑫山岳図
・奉納年月日 不明
- ⑬能 奉納額
・昭和25年（1950）10月 奉納



- ⑭国歌「君が代」額
・昭和御大典記念「昭和3年（1928）秋」奉納
- ⑮鶴図
・奉納年月日 不明
- ⑯書額「敬神崇祖」
・昭和5年（1930）仲秋 奉納



おわりに

以上3神社23面の「絵馬」を紹介しましたが、歩く会だけでなく今後これらの神社を参拝される機会がありましたら、じっくりと鑑賞されてはいかがでしょうか。

創立50周年特別寄稿 第1弾 回想（東広島市誕生直前から…）

石井 康隆

初代会長の景山先生の「出発」から50年になりました。歴史を重ねて50年。会員の皆様の研鑽、努力により続いております。これからも続くでしょうし、続くよう頑張りましょう。

少し変わった方面から回想させていただきます。東広島市が誕生してから50年ですが、その誕生に少しばかり関わらせていただきました。東広島市の誕生は昭和49年8月ですが、その前の準備段階の47年度48年度に学園都市建設構想を手伝わせていただきました。そのことについて回想させていただきます。

この時期に文部省の監督のもと「広島大学」と「広島県」が広島大学統合移転計画を検討し始めました。その時、私は県の土木建築部の道路建設企画調査係長としてこの作業に参加させ

てもらいました。昭和24年に教育制度が変わって、各県に国立大学を1校設立と言うことになり、広島県には「広島大学」が誕生しました。それは広島県の旧制高等教育機関の集まりで文理大、高等師範、高等工業専門学校など8校の集まりでした。いわゆる「タコ足大学」でキャンパスが県下8か所に分散していて、大学ではこれを一つに統合したいと願っておられた。ではと県が乗り出し大学を中心に筑波大学と同じような「大学街」を造ることが検討されました。大学の発足が決まってから24年目のことです。この機運が高まったのは、学生運動が全国で荒れ狂ったのを契機に大学側の悲願が強くなったわけです。統合移転候補場所は県下に沢山あり、陳情合戦もありました。検討する中で最終3か所が候補地に残りました。

①西条盆地 ②五日市の石内 ③可部峠で学園都市を造るスペースは①の西条盆地しかないということでこの地に決まったわけです。

広島大学の本部のある広島市は大学の学生運動が激しいので大学を迷惑施設のように思い傍観の姿勢でした。それで昭和48年2月に移転先が「西条町下見」に決まり、そして次の年の49年7月に受け皿として地元「志和町」「八本松町」「高屋町」「西条町」の4町が合併して「東広島市」が誕生しました。

それに合わせて、東広島郷土史研究会が発足し、景山先生の「出発」の号砲一発がなり、この会が発足となったわけです。

それから街づくりが始まりました。

街づくりにも、統合検討委員会に参加していた縁で、昭和53年に、高校も県庁も先輩の2代目讃岐市長に呼ばれて「建設部長」で県から市に出向して来て学園都市建設の初めの部分を手伝わしてもらいました。県から私に続いて7人の部長が出向してきました。

広島大学のキャンパスの用地買収は県が大学より受託して行い、今の鏡山公園もキャンパスとして買収しましたが、広すぎると「文部省」に叱られて、旧地主に返却するわけにいかず、苦肉の策として県営公園として整備し、今は市へ委託して市民の憩いの公園になっています。

部長に着任したころは学園都市建設の初期で、白紙に絵をかくようで、ブルーバールのコース、幅員の決定、景観の電柱の地中化の中国電力との交渉をやりました。大学キャンパスを含めた造成が500ヘクタール以上になると国の「地域振興整備公団」が立て替え施工をしてくれるということで、キャンパス以外の住宅地を寺家の山に計画しておりましたが、国有地や保安林が

多く、解除に時間が掛かるということで、急遽、西高屋の高美が丘に求めて奮闘したのもいい思い出です。市内を歩いていると、思い出すことが沢山あります。話が郷土史研究会の守備範囲を出ましたが。このようなことがあって東広島市が誕生したことを頭に入れて、市の50年周年を祝ってもらいたいと思います。

第38回

東広島市の史跡文化財を見て歩く会

日 時 令和6年4月29日(月・祝日)
受付9:00～ 開会式9:30～ 出発10:00～
集 合 東広島市立八本松小学校体育館
コース 八本松・川上地区 (歩行距離約7km)
その他 参加費500円 申し込み不要

グループ研究会ご案内

第285回 古文書研究会

と き 4月16日(火) 13:30～
ところ 市役所北館 市民協働センター
テキスト 国郡誌御用書上帳賀茂郡奥谷村③

石造物研究会

4月はお休みです。

第181回 四日市町並研究会

と き 4月8日(月) 10:00～
ところ 西条本町歴史広場 小島屋土蔵
「酒都西條」パワーポイント作成

昔の道探訪会 (旧山城探訪会)

4月はお休みします。

原爆資料保存研究会

と き 4月18日(木) 14:30～
ところ 市役所北館 市民協働センター

4月の図書室開放

と き 4月19日(金) 13:00～15:00
ところ 高屋教育集会所

ひがしひろしま郷土史研究会ニュース 第596号

令和6年(2024)4月5日発行
編集・発行 東広島郷土史研究会
会 長 赤木達男 TEL(082)423-7235
E-mail:akata@akata.dion.ne.jp
事務局長 國松宏史 TEL090-7979-6234
E-mail:kunimatsu402@hi3.enjoy.ne.jp
会報編集 間瀬 忍 TEL080-5756-2303
E-mail:mase shinobu@yahoo.co.jp